

## 平成 29 年度 異常気象分析検討会（定例会）議事概要

1．開催日時

平成 30 年 3 月 5 日（月） 15:00～17:00

2．開催場所

気象庁大会議室

3．出席者

別紙 1 のとおり。

4．議題及び検討結果の概要

下記の議題について検討を行った。

（1）今年度の活動報告と来年度の活動計画について

平成 29 年度の活動報告に続き、平成 30 年度の活動計画について検討を行い  
了承された。

（2）2017/2018 年冬の大気循環場の特徴とその要因

日本の 2017/2018 年冬の天候の特徴とその要因について検討を行い、その結  
果を別紙 2 のとおりとりまとめた。

平成 29 年度 異常気象分析検討会（定例会） 出席者

異常気象分析検討会 委員

なかむら ひさし 中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター 教授
むこうがわ ひとし 向川 均	京都大学防災研究所 教授
いわさき としき 岩崎 俊樹	東北大学大学院理学研究科 教授
かわむら りゅういち 川村 隆一	九州大学大学院理学研究院 教授
きもと まさひで 木本 昌秀	東京大学大気海洋研究所 教授
たかやぶ いずる 高数 出	気象研究所環境・応用気象研究部長
たかやぶ ゆかり 高数 縁	東京大学大気海洋研究所 教授
たにもと よういち 谷本 陽一	北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授
ひろおか としひこ 廣岡 俊彦	九州大学大学院理学研究院 教授
ますもと ゆきお 升本 順夫	東京大学大学院理学系研究科 教授
わたなべ まさひろ 渡部 雅浩	東京大学大気海洋研究所 教授

（ : 会長、 会長代理、 敬称略、 会長・会長代理以外は五十音順）

気象庁

地球環境・海洋部長、地球環境業務課長  
気候情報課長、エルニーニョ情報管理官、予報官  
異常気象情報センター所長、予報官  
海洋気象課 海洋環境解析センター調査官、海洋気象情報室課長補佐  
環境気象管理官  
関係官

(2017/2018 年冬の天候の特徴)

- 日本付近に強い寒気が流れ込むことが多かったため、全国的に気温が低くなった。特に西日本の平均気温平年差は-1.2 で、平均気温平年差-2.1 を記録した 1986 年冬(1985 年 12 月~1986 年 2 月)以降の 32 年間では最も寒い冬となった。
- 寒気のピーク時には大雪となった所もあり、日本海側を中心に多くの地点で最深積雪が平年を上回った。気象庁で積雪を観測している 321 地点中、17 地点で過去の年最深積雪の記録(タイ記録を含む)を更新した。

(今冬の天候をもたらした要因)

- 今冬、日本付近に強い寒気が流れ込むことが多かった要因としては、大気上層を流れる亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流が、日本付近では南に蛇行するとともに、冬型の気圧配置が強まったことが考えられる。
- 亜熱帯ジェット気流が日本付近で南に蛇行した一因として、ラニーニャ現象の影響により、インドネシア付近の積雲対流活動が平年よりも活発だったことが考えられる。また、大西洋上空のジェット気流の持続的な蛇行の影響も考えられる。
- 寒帯前線ジェット気流が日本付近で南に蛇行した一因として、ユーラシア大陸北部の寒帯前線ジェット気流の大きな蛇行により、大気上層の極うずが分裂して、東シベリアから日本の北方に南下したことが考えられる。
- ユーラシア大陸北部の寒帯前線ジェット気流の大きな蛇行の要因として、大西洋上空のジェット気流の持続的な蛇行や、バレンツ・カラ海付近の海氷が平年と比べてかなり少ない影響も考えられる。